



## シンポジウム参加のお礼



中海水産振興シンポジウム 2008

### 中海のサルボウガイ復活案の提唱 - 環境保全と漁業の両立を目指す -

去る平成 20 年 1 月 12 日、島根県松江市の松江テルサにおいて、中海水産振興シンポジウム 2008 (主催 中海水産振興シンポジウム実行委員会・島根大学汽水域研究センター、共催 島根県・鳥取県) は、多数のシンポジストや参加者を得て盛会の内に終了いたしました。

三連休初日の雨中にも関わらず、98 名もの来場者がありました。これは、本シンポジウムのテーマに対する研究者や地域住民の高い関心を反映したものであり、主催者としてのみならず中海に関わる研究者の一人として、改めて中海における水産業の復活が、地域社会の活性化に不可欠であることを実感いたしました。今後も機会がありましたら、関連のシンポジウムを企画したいと考えておりますので、お問い合わせやご意見等ございましたら、島根大学汽水域研究センターまでご連絡下さい。

最後になりましたが、本シンポジウムを開催するにあたり、ご協力いただきました多方面の皆様方に厚く御礼申し上げます。



中海水産振興シンポジウム実行委員会委員長  
荒西太士 (島根大学汽水域研究センター教授)

63 名収容の会場に 98 名の来場者ですごい熱気でした (左)



予備の椅子を多数用意しましたが廊下まで来場者が溢れていました (右)



島根大学理事・副学長の高安克己氏による開会の挨拶 (左)



広島大学名誉教授の松田 治氏による英虞湾再生プロジェクトを紹介した基調講演 (右)



中海漁業協同組合理事の石倉正夫氏による“漁業者の声” (左)



島根大学准教授の山口啓子氏によるサルボウの環境耐性に関する講演 (右)



鳥取県衛生環境研究所特別研究員の宮本 康氏によるサルボウの生息環境に関する講演 (左)



瀬戸内海区水産研究所研究室長の浜口昌巳氏による二枚貝幼生の分散に関する講演 (右)

